

ミュージアム自然観察路のオープンと今後

三宅 隆



総会後の自然観察路の見学会

ふじのくに地球環境史ミュージアムの1周年記念として、当NPOが主体となり、ミュージアム職員、サポーター、サービススタッフ、インタープリターなど関係する団体の有志が協力して、補修、整備した「生物多様性のみち

自然観察路」の道のオープンが、開館記念日の3月26に行われました。多くの方が参加を希望され、研究員やNPOスタッフ、インターパリターの案内により約1時間の自然観察を楽しんでいきました。

4月23日のNPO総会の後、希望者がこの観察路を歩きました。短い観察路ですが、意外と豊富な動植物との出会いに、皆一様に、ミュージアムにはこのような自然観察の場が必要との意見をいただきました。

その後、ミュージアムよりこの観察路に設置するプレートを依頼され、色々と苦労しながら、生物多様性がわかりやすく、季節により変更可能なプレートを考えて設置中です。

現在、個々の動植物の生息リストを作成する予定です。植物については、杉野孝雄理事の指導の元、作成に取り掛かりました。現在の春から初夏にかけて、

樹木105種、草本115種、シダ31種が確認されています。昆虫も、NPOの専門家が、トラップなどで採集してデータを積み上げています。

現在、季節的イベントとしてミュージアム職員などのによるガイドしか行われませんが、ここを見に来たい方は多いはずです。

これからこの自然観察路の活用について、土、日にはここを歩いてみたい来館者が増えることを考えられます。NPO職員だけではできない、そのガイド

をサポーターの皆様にお願い出来る体制を作ることも必要と考えます。今後ミュージアムをけん引してくださるサポーターに専門的知識を吸収してもらうべく、学習会や勉強会を開いていく必要性を感じています。

私は、ほぼ毎日、この観察路をまわっていますが、植物、昆虫、鳥類など、それぞれ、新しい発見があり、すごく楽しい時間を過ごしています。そして、日頃の観察の積み重ねの必要性を痛感しています。



植物調査風景